令和５年度　第１回我孫子市商業観光まちづくり委員会　会議概要

１．会議名称	令和５年度　第１回我孫子市商業観光まちづくり委員会
２．開催日時	令和６年３月28日（木）14：00～16：00
３．開催場所	我孫子市役所　議会棟　第一委員会室
４．出　席　者	＜委員＞ 依田委員長、中井副委員長、上村副委員長、池松委員、中澤委員、梶委員、清水委員、吉﨑委員、谷口委員、掘井委員、熊本委員、森住委員、嶋田委員、辻委員 ＜欠席者＞ 松島委員
	＜事務局＞ 商業観光課　秋田課長、工藤主幹、大阿久総括主査、輪島主任主事 （挨拶のみ）星野市長、山本環境経済部長 角田主任主事
５．議　　題	①委員長及び副委員長の選出 ②会議の公開と傍聴について
６．報　　告	①我孫子市商業観光まちづくり大綱について ②我孫子市商業観光まちづくり委員会について
７．公開・非公開	公開
８．傍　聴　人	１人

会議の内容

【議題】

①委員長及び副委員長の選出

商業観光まちづくり委員会設置要領第５条第２項に基づき、委員の互選により依田委員が委員長となり、委員長の指名により、中井委員及び上村委員が副委員長となった。

②会議の公開と傍聴について

我孫子市審議会等の会議の公開に関する規則の説明を行い、事務局で作成した商業観光まちづくり委員会傍聴要領（案）のとおり進めてよろしいか採決を採ったところ、異議はなく、原案通り可決した。傍聴人１名に入場していただ

いた。

【報告】

①我孫子市商業観光まちづくり大綱について

事務局より説明を行った。

<主なご意見>

委員　大綱や事業集、データブックは変えることが可能か。商業観光を活性化することで人口を確保することを目的としていると認識していた。大綱が12年の計画であるなら、人口の確保にもっとフォーカスを当てるべきと考えるがいかがだろうか。

事務局　大綱は見直しの機会を4年毎に設ける。分科会1は主に大綱の改定を議論する場である。事業集とデータブックは毎年改定する。移住定住の促進については、シティプロモーションとして、別部門であるあびこの魅力発信室で取り組んでいる。人口減少に対する取り組みは、当然必要なものであるため、大綱に記載している。しかし、大綱は移住促進よりも、住み続けるという意思を持ち続けてもらう方に重きを置いている。市民がイベントやお祭りに参加してもらうことにより、この街を好きになり、定住したいという意思、シビックプライドを高めることが大綱の趣旨である。また、今後日本全体で人口は減少するが、交流人口を増やす余地はある。特に、長期滞在する方の生活は、住民と大差がないと考えており、地域経済の底上げになり、住民の不便の抑制にもつながると考えている。

委員　あびこの魅力発信室とアビシルベの連携を高めていただきたい。

事務局　アビシルベではあびこの魅力発信室の持っている情報も発信を行っている。また、ここが商業観光を取り扱う場だからと言って、移住定住の話をしてはいけないわけではなく、様々なご意見をいただいて、我々で取り組めるものがあれば、積極的に取り上げていき、他部門に任せたほうが良いものであれば、その橋渡しや連携も行っていく。

委員　　この委員会はスライドにあった5項目の課題を解決するためにできたという認識でよろしいか。また、再度の確認になるが、商業観光まちづくり委員会は移住者促進について議論する場ではないのか確認したい。最後に、DMOは新たに設置するのか、それとも今あるアビシルベの延長となるものなのか伺いたい。

事務局　　課題解決に取り組むのは商業観光課であり、委員の方々にはそのモニタリングをお願いしたい。そして、商業観光課の1年間の取り組みの報告を受けて、ご意見をいただきたい。取り組みが不十分である場合は、改善のためのご助言や、「こういうことがやりたい」というような提案をいただきたい。
移住促進については、中心に据えるテーマではないと考えているが、重なる部分は多分にあるため必要に応じて取り扱っていきたい。しかし、あくまで軸足はシビックプライドの向上と、観光客をどう増やすかであると考えている。
DMOはアビシルベの延長である。アビシルベの機能を拡張し、それができれば登録DMOにもなれると考えている。

委員　　各要素のつながりが見えてこない。観光客とはいっても、東京から来る人と、関西等の遠方からの観光客ではとらえ方が全然変わってくる。東京から電車で40分というのが我孫子市の魅力であるが、東京の観光客が気軽に来れる距離なのに一泊するだろうか。一泊するのが観光との説明があったが、その解釈を我孫子市に当てはめて良いのだろうか。我孫子市には我孫子市の独自性があり、魅力がある。だからこそ、我孫子市ならではの考え方が有用であると考えている。SNSについても、いきなり市民が我孫子市をアピールしても外部の人には刺さらないと思う。理由は観光客目線ではないからである。例えば、我孫子市の魅力は、東京から40分の距離にあるのに芋ほり体験のような農体験ができる場所があることだと考えている。今はそういったコンテンツに需要があり、それを体験した観光客がSNSに投稿し、その投稿を見て、より遠くから観光客が来て、宿泊につながる。こういった関連性、因果関係は検討されているのだろうか。

事務局　　首都圏全体を組み込んだ観光における広域連携の枠組みに入ることも考えられるし、成田や羽田といった国際空港からのアクセス

が良いという特性、地の利をいかに活かしてアプローチすべきかは、今後の検討課題である。一方で、観光の目的が多様化している現代において、定型的な観光モデルを作るのが良いのか、他のアプローチがあるのかは悩ましく結論は出ていない。

委員　近隣市における手賀沼振興の政策について調査し、連携する検討はしているか。

事務局　手賀沼・手賀川活用推進協議会という組織を柏市、印西市とで作っており、手賀沼手賀川流域の活用に向けて意見交換を行っている。民間ベースの取り組みまで網羅できているわけではないが、行政間で情報をやり取りする枠組みはある。商業観光課も関わっているため、共有すべき事項があれば報告する。

委員　大綱はSDGsを基にしたまちづくりを謳っているが、先進的な街では環境庁が打ち出している30by30の達成に向け、ネイチャーポジティブの取り組みを行っている。例えば、所沢市は、ネイチャーポジティブ宣言をしており、環境と共生をしながらまちづくりを行うことを宣言している。手賀沼はかつて、水質汚染度が全国ワースト1位だったが、どうにかそこから脱却してきたという背景があり、このように回復に転回することがネイチャーポジティブである。鳥や虫、植物の数を増やす活動を、市民、民間、行政が連携して行い、手賀沼がよりきれいになっていくというのをゴールとすれば、ストーリーとしてつながりが見えやすい。NEC我孫子事業場の四つ池は環境省の「自然共生サイト」に認定され、最新例として各所で取り上げられているため、その事例を手賀沼に活かせると良いと考えている。

　また、我孫子市は市民活動が盛んな街である。市民活動団体にもこの会合に参加してもらえれば、より強固なまちづくりをすることができる。地域幸福度指標をみると、我孫子市は客観的データより主観的データの方が評価が高く、研究対象になるくらいシビックプライドが高い。市民がプライドを持って生活しているということが可視化されている。

まとめると、ネイチャーポジティブの考え方を取り入れるのと、シビックプライドを高めるために定量的な判断は地域幸福度を取

り入れ、市民活動団体に参加してもらうと良いと考えている。

事務局　ネイチャーポジティブについては今後調査研究を進める。まちづくりという言葉は元々は市民活動に由来する言葉であると聞いたことがある。市民活動団体とも良い関係を築きたいと思っているが、具体的には、委員の皆様からの意見も伺いながら検討していきたい。地域幸福度についても調査研究を進める。

委員　我孫子＝手賀沼というイメージが強く、手賀沼をストーリーの中心に据えがちであるが、ホテルでとっているアンケートを見ると、手賀沼以外にも、ポイントがたくさん点在している。例えば、ミニ鉄道に乗るためにわざわざ関西から来られる方がいたり、歴史探訪のために将門の井戸を訪れる方がいたり、利根川をさかのぼってサイクリングをする中継点として我孫子に泊まったり、JBF に参加するついでに白樺文学館に行かれる方などである。そこで考えたのは、我孫子＝手賀沼のようにストーリーを決めつけてしまうのはかえって視野が狭まり危ないということである。せっかく辻委員がいらっしゃるので文化についても洗い出しを行いたいですし、駅からハイキングは強力な観光コンテンツであるし、中央学院大学には素晴らしいサッカーフィールドがあったり、野球が強かったりするので、遠方の学生さんに遠征でお越しいただくなど、我孫子市には磨き上げることにより様々なストーリーが生まれてくる可能性がある。それらをどうやって磨き上げ、ポテンシャルを引き出すかという議論をしていきたい。

委員長　これからこの委員会を通して議論を重ねることになるが、委員の皆様には是非、様々な意見を出していただきたい。

②我孫子市商業観光まちづくり委員会について

事務局より説明を行った。

<主なご意見>

委員　産官学の様々な分野から人が参加されている中で、公平性は一つのポイント。例えば産業であれば、収益性を求めるが、この委員会で公平性をもって課題解決していくのであれば、具体的な目標

設定をすれば、うまくプロジェクトが進むのではないかと思う。

事務局　昨年度、我孫子市ではキャッシュレス決済のキャンペーンを行ったが、目標に対して、ベストな方法を議論した結果であり、まさに委員がおっしゃる通り、具体的な目標設定が大事であると考えている。大綱全体とすると、範囲が広大過ぎて一つに絞ることは難しいため、個別のプロジェクト単位での話であると考えている。例えば、観光資産認定協議会はしっかりとした目標管理を行っていきたいと思う。

委員　分科会が 3 つあるが割り振りはどのように考えているか。

事務局　5 月の全体会の主要な議題になると考えている。予算の関係で人数の割り振りのイメージはあるが、どの方にどの分科会を務めていただくかは、委員のみなさまと相談しながら事務局案をお示ししたい。

委員　開催頻度は年１回で足りるだろうか。ただ市の報告を聞くだけの会にならないだろうか。事前に資料はいただくが、全部を読み込む時間はなかなか捻出できない。とりあえず委員会に出席して報告を聞き、市が委員から意見を聞きとったという証拠を残すだけの集まりになるのであれば、市からの報償費はいらないので、ちゃんと話し合う場を設けていただくほうが、私は望ましいと思っている。

委員長　全体会を増やすような方向で検討できないだろうか

事務局　事務局内でもしっかり検討したい。全体会＋分科会で最低でも年２回、複数の分科会に所属していただく方もいると思うので、３回ほど集まりはあると認識していただきたい。我々は委員会でなければ意見を聞かないというわけではなく、いつでも意見交換をさせていただきたいと考えている。また、可能な範囲で交流や学習等の機会も設けていきたいと考えている。委員会の開催回数については委員長を交え事務局でも議論していく。

【傍聴人の発言】
　無し。

【その他】
・今後のスケジュールについて、配布資料に沿って説明した。
・今後の連絡手段については主に E-mail にて行う旨を説明した。